

編集後記

最初に、本誌の発行が大きく遅れたことをお詫びしたい。編集子の都合で編集作業が滞って、皆様に迷惑をかけてしまった。どうもすみません。

さて、「シェイクスピアの四大悲劇は、すべて言葉(words)がテーマ」と上田先生からお聞きしたことがある。言葉の真実性。それが未来に関わるとき、それが実行されなかった裏切りへの失望、怒り。『リア王』が正にそうだ。鳩山由紀夫前首相の「基地の最低でも県外移転」の理想発言は、沖縄でそれを実証した。そしてその後継者菅直人首相は、前任者が「四年間は消費税を上げない」と約束したその消費税値上げを持ち出して、参院選大敗の一因となった。

沖縄県民の声を最もよく代弁していたのは福島瑞穂党首の社民党であった。鳩山首相も、同じその約束を守るためには、その声を米政府にぶつけるべきであった。必ずしも、今どき、会って話す必要はない。伝える方法はいくらでもある。どうせ辞めることになるなら、そこにこそ政治生命を賭けるべきであったろう。そのときには沖縄県民も納得し、自らもその主義を通したのだから清々と退くことができたであろう。上田会長が多くの沖縄県民から聞いたところでは、鳩山首相が、1. 沖縄の持つ抑止力を認め、2. 段階的に国外移転を目指す。そして3. それに伴う県民の生活を保証する。この三つを発言し、そこに政治生命を賭けてくれたなら、沖縄県民は納得しただろう、という。

しかし共和党の防衛戦略をかなり継承したオバマ政権では、日本からのこうした主張は全く受け入れられない、という見方がある一方、米民主党は鳩山新政権の出方を見守っていたという見方もある。

オバマ氏の大統領就任は、ほぼ世界中から歓迎された。そしてその出方が注目された。核廃絶宣言は依然そうだが、軍隊の海外増派を決定したあたりから、しかし国内外に失望が生まれ、敵対する国やグループを増やしてしまったようだ。

折りしも上田会長が恩師について書いた『ブライズ先生、ありがとう』が出版された。非戦主義で生涯を貫き、ユーモアなしでは生きられない、と語ったという。本号には、この本についての多くの方々の感想を収めることが出来た。

ところで、この夏は各地で、猛暑による熱中症の被害が相次いでいる。海や山での事故も後を絶たない。大自然の猛威の前に、科学技術ができることは限られる。人類の共存に加えて、自然環境を大事に自然とともに生きる、ということも考えたい。(編集子)

『融合文化研究』第15号

<http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

発行所 192-0906 東京都八王子市北野町 560-11-302 菊地方

国際融合文化学会 (ISHCC) 事務局

発行人 上田 邦義

発行日 2010(平成22)年8月20日 印刷所 合同印刷株式会社

Published by: International Society for Harmony & Combination of Cultures (ISHCC)

c/o Kikuchi, 302, 560-11, Kitano-machi, Hachioji-shi, Tokyo 192-0906, JAPAN

e-mail: ueda@gssc.nihon-u.ac.jp Tel: 0557-82-1411(Ueda)
